

子育て支援情報 チビっ子らんど

親子で自由に遊べる場所です。
昼の部屋とじゅうたんの部屋があります。
0歳児の赤ちゃんから利用できますので、気軽にお越しください。

日時 毎週火曜日10時～16時
毎週木曜日10時～12時
場所 福祉会館2階娯楽室・教養娯楽室（吉田島1043-1）駐車スペース有り
内容 会館にあるおもちゃやビデオを自由に使用できます。※費用無料
その他 場所の開放のみで、職員は常駐しておりません。お子さんから目を離さないようにしてください。

町社会福祉協議会
☎82-5222



生き生きレポート

こっちはお店がたくさんあるわ！

開成南小学校 ☎83-2250

子どもたちの声が響きます。2年生は、生活科で町探検をしています。すごいなという“わくわく”や何でだろうという“ふしぎ”を発見し、自分たちの住む地域や町を見つめ直すことが目的です。子どもたちは、見つけたものを地図やポスターにまとめていこうと考えています。2学期はどんな物が発見できるでしょうか。今から楽しみです。



新しい発見を紙に書き留める子どもたち

図書室だより（9月）

町民センター3階

※貸し出し冊数は4冊まで、期限は2週間です

今月のこの1冊

紙つなげ！彼らが本の紙を造っている

佐々 涼子 著

日本製紙は日本の出版用紙生産の四割を担う。その主力である石巻工場が東日本大震災で津波の被害に遭った。敷地には泥水とともに瓦礫や近隣の家屋18棟、自動車約500台が流れ込み、塵一つ混入してはいけないう工場には大量の土砂が入り込んだ。

完全に機能停止した工場は閉鎖さえ疑われたが、工場長は半年での復興を宣言した。

本書では現場の人びとの証言をもとに、被災してから操業再開までを追っている。



みんな集まれ！おはなし会

◇子どもの広場

内容 「むしずもう」をつくります
日時 9月27日(土)10:00～
持ち物 はさみ・油性カラーペン
対象 5歳（保護者同伴）～
場所 町民センター2階 小会議室A
申し込みは直接図書室へ 又は、☎82-5221

【開室時間】 火～金曜日 10:00～20:30
土・日曜日 10:00～17:00
祝日 23日 10:00～17:00
【休室日】 毎週月曜日・13日（阿波踊りのため）

新しく購入した図書（主なもの）

● 一般書 ●

・フラッシュモブ 遠藤武文
・松姫はゆく 仁志耕一郎
・山女日記 湊かなえ
・アクアマリンの神殿 海堂尊
・野望の憑依者 伊東潤
・月の部屋で会いましょう レイ・ヴクサヴィッチ

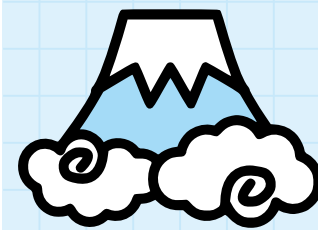
● 児童書 ●

・るいくんとおばけくん 松成真理子
・ブルーとオレンジ 福田隆浩
・ちいさいタグはおおいそがし スティーブン・サヴェッジ

◇おはなし会（第1土曜日、第3水曜日）

日時 9月6日(土) 10:30～
9月17日(水) 15:00～
場所 町民センター3階図書室
申し込みはいりません

●家庭・地域・学校などでの読書活動を推進するため、開成町では毎月1日を「開成ファミリー読書デー」にし、読書活動を推進します。



開成町と富士山

（その6）

富士山が世界文化遺産に登録されたことに合わせて、「開成町と富士山」シリーズを連載しています。おたのしみください。

教育総務課 ☎82-5221

金井島横境出身の加藤平左衛門は、富士講の先達（指導者）として、明治十（一八七七）年代より同三十年代にかけ、当時の酒田村や近くの村々で富士信仰の普及に活躍しました。彼は「星に仏が宿るように、霊峰富士にも菩薩が宿って国や人々を守ってくれる」と信じ、北極星と富士山を結びつけた藤丸講を創設しました。この教えは金井島を中心に岡野、延沢、円中さらに吉田島へと広がり、最盛期には山北や小田原にも信者がありました。

金井島の住居跡（金井島二〇一番地）は、現在は瀬戸良雄様の屋敷になっておりますが、今でも地域の人たちからは、「先達さん」と呼ばれています。庭の西隅に自ら建てた北辰妙見星碑や、彼を慕った人たちが明治四十二年に建てた顕彰碑・大講義名山壽行（加藤平左衛門）碑



顕彰碑（大講義 名山壽行碑） 北辰妙見星碑

その碑には、誠実な人柄で人生にひたむきに立ち向かい、十歳より六十歳まで富士山に七十六回も登ったこと、日露戦争ではその勝利を祈願して、当時の陸軍参謀総長小松宮ご染筆の「国威震耀」の額を須走浅間神社に奉納したことなどが記されています。

明治三十七（一説には四十二年）に没し、墓所は金井島の香徳院にあり今もご子孫により守られています。関係する碑は写真の顕彰碑の他に、円中の富士塚、下島祖師堂前の北辰妙見星碑などにもその名が刻まれています。

（文化財保護委員会 遠藤・久保田）

*文芸

開成俳句会

俳句

八月吟

ともしび短歌会

短歌

七月詠

脚萎えの旅路夢見る秋日和
花氷促されても動かぬ子
八月のマチュピチュガイド日本人
新涼や髪切り過ぎて心地よし
玉ゆらの淡き想ひや遠花火
心なき白き言葉や秋の風
立ち寄りし道の駅なり茸飯
温顔の尼の読経や墓参せる
久々に家族揃ひて墓参り
水底に休む影あり水すまし

菩提寺の山門新た墓参せり
墓参りは何時でも行うが、俳句界ではお盆の墓参りや墓石を洗うことも秋の季語とします。掲句は御先祖の眠るお寺にお参りに出掛け、寺領に入って山門が新しく建立されていた。その印象を一句に仕立てたのである。作者の姿勢がよく分かる佳句です。

波多野すみ枝
有賀孝子
瀬戸悦子
下澤操子
奥津ちわき
遠藤マツエ
遠藤シヅ子
遠藤美津子
濱本主雄
新井たか志

駅前の登山の人らすりぬけて
ビルの谷間へと小田急に乗る
庭すみに白南天の咲き満つる
亡兄の形見と偲ぶ夕暮れ
白南天は、珍しく、表鬼門（北東）の角に植えられる。亡兄が植栽の形見で、今を盛りの様を見ると、方位を考え、よく手入れをしてきたことがふと偲ばれる。そのような夕暮時であると詠んだ。

辻岡洋子
杉本シズ子
近藤正臣 選

産土の社に夕日さし入りて
大きな影つくりつつ犬と歩みぬ
愛犬と散歩のコースは鎮守。心安らぎ、長居してしまふ。今日もいつしか夕日が射し入り、大きな影を演出させる中、歩を進めたい。四句目の破格も自然的で、メルヘン調の絵を思わせる一首。
※産土①人の出生の地。生地。故郷。②産土神の略。
産土神③生まれた土地の守護神。近世以降は氏神と混同。鎮守神。